



TE Connectivity

# 2026 インダストリアル・テクノロジー・インデックス

## 日本版概要

### 本調査について

TE Connectivity 2026 インダストリアル・テクノロジー・インデックスは、世界のテクノロジー業界を牽引するイノベーションの現状を把握するために、第三者機関に委託して実施されたTE Connectivityの独自調査報告書です。本調査は、米国、中国、ドイツ、インド、日本の5カ国において、各業界のエンジニアとエグゼクティブ、計1,000名を対象にオンラインで実施しました。重要なイノベーションの課題に企業がどのように取り組んでいるかについての洞察と知見を提供することを目的としています。



グローバルレポート全文を見る

© 2026 TE Connectivity. All rights reserved.  
TE Connectivity, TE, および TE connectivity (ロゴ) はTE Connectivity plc ファミリーの企業が所有またはライセンスしている商標です。

Published 03-2026

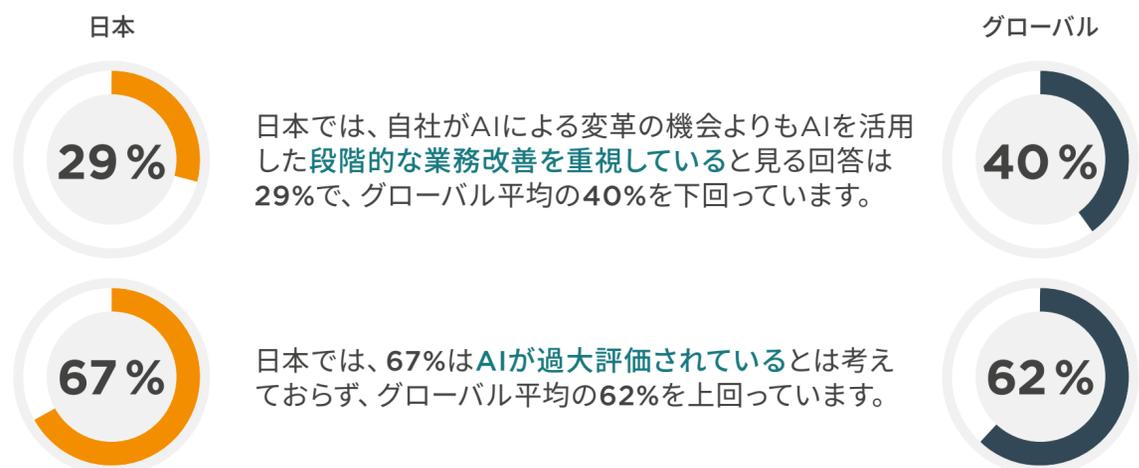
### 本格化する日本のAI活用

日本企業のAIへの取り組みは、戦略的方向性に対する自信と、慎重な実行姿勢の両立を示しています。日本企業は、自社のAI導入は「段階的な取り組みにとどまっている」と捉えている傾向が比較的強く、AI施策が「変革につながる成果」を目指すものであるという自信がうかがえます。

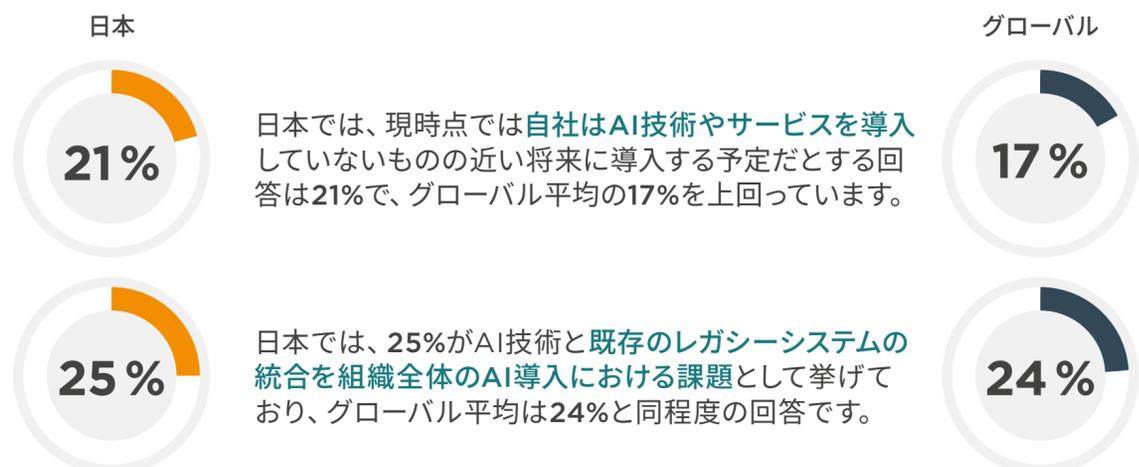
一方で、導入に向けた課題も残っています。回答者の過半数が、スキルや専門知識の不足をAI導入の障壁と挙げ、「現時点ではAI技術を導入していないものの、近い将来にAIを導入する計画がある」と回答した割合もグローバルを上回っています。これらの調査結果を踏まえると、日本企業は意欲的なビジョンを持ちながらも、その実現に向けた基盤づくりを進めている段階にあることが見えてきます。



#### 変革に、より重点を置く



#### 統合の格差



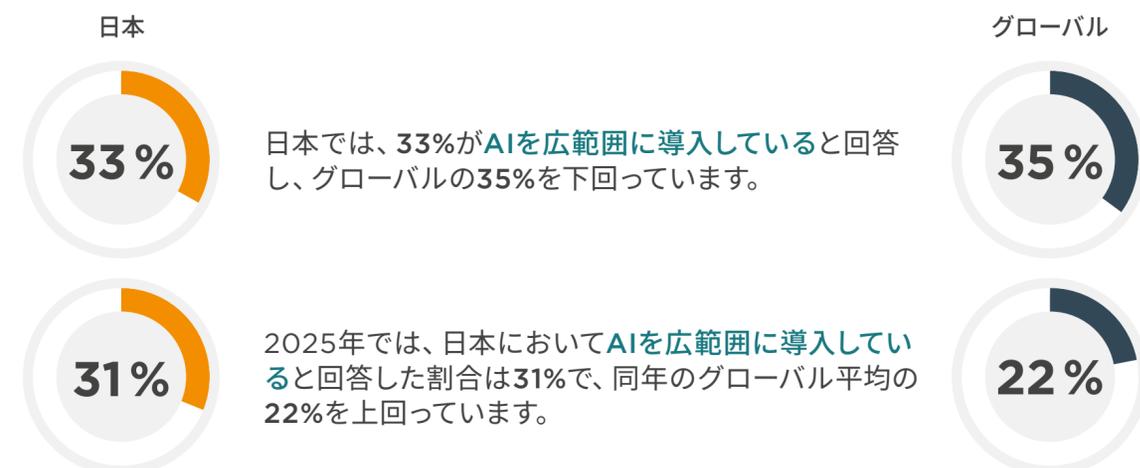
### AIがイノベーションを加速

日本におけるAI導入の動向は、急進的な導入よりも、計画的かつ段階的に拡大していくモデルであることを示唆しています。日本でAIを広範囲に導入していると回答した割合は、2025年の31%から2026年の33%へと緩やかに上昇し、急激な増加ではなく、着実な拡大が続いています。2026年のAI導入率自体はグローバル平均と概ね同水準であるものの、その成長ペースには差が見られます。グローバルではAIを広範囲に導入している企業の割合が2025年から13ポイント増加しており、日本の緩やかな導入拡大を上回っています。

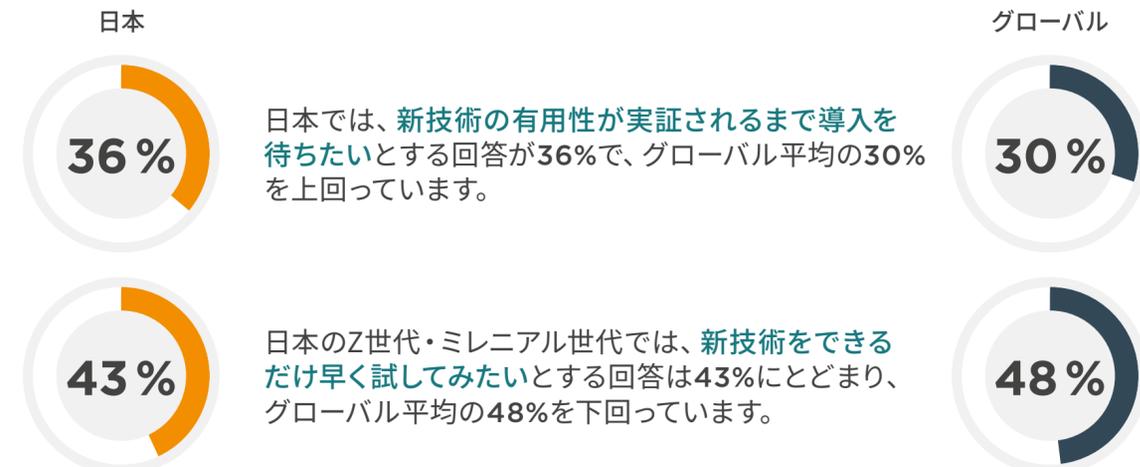
この慎重な姿勢はAIにとどまりません。日本のエンジニアやエグゼクティブは、新技術全般の導入に対しても慎重な姿勢を示しており、グローバルでは最も導入意欲が高いとされる若年層においても、日本では慎重な傾向が見られます。



#### 広がるAI導入



#### 新技術への慎重な姿勢



## AIを活用した業務の広がり

人材面では、AI活用への意欲に対して、必要な関連スキルが追いついていない現状が見受けられます。日本の回答者のうち、AIと効果的に協業するための技術的スキルを十分に備えている、またはAIを日常業務に容易に統合できると実感している割合は、いずれもグローバルより低い傾向があります。また、日本の企業では、エンジニアのリスキリングや、AI導入による人員削減を報告する割合も低く、組織構造変化のペースが比較的緩やかであることを示しています。



### AIと協業する能力

日本

62%

日本では、AIと効果的に協業するために必要な技術的スキルを備えているとする回答は62%で、グローバル平均の73%を下回っています。

グローバル

73%

54%

日本では、AIを日常業務に容易に統合できると感じている割合は54%で、グローバル平均の67%を下回っています。

67%



### 人材への影響

日本

42%

日本では、AIの導入によって一部業務に必要なエンジニアの数が減少したとする回答は42%で、グローバル平均の53%を下回っています。

グローバル

53%

62%

日本では、AIと効果的に協業するためにエンジニアのリスキリングを進めているとする回答は62%で、グローバル平均の71%を下回っています。

71%

## 過去から学ぶ

このような慎重な姿勢は、AIの価値に対する認識にも及びます。日本の企業の考えるAIの価値は、「自動化」と比べたときの効果や、コスト削減の促進、新たなスキル開発の機会の創出といった点について、いずれもグローバル平均を下回る結果となっています。一方で、AIが「自動化」と同様の導入課題に直面すると考える回答も比較的少なく、AIが自動化とは異なる、新たな道を切り開く技術として捉えられていることを示唆しています。



### AIのメリットに対する慎重な見方

日本

54%

日本では、AIには自動化よりも幅広い価値をもたらす可能性があるとする回答は54%で、グローバル平均の63%を下回っています。

グローバル

63%

66%

日本では、AI導入が新たなスキル開発の機会を生み出す可能性があるとする回答は66%で、グローバル平均の74%を下回っています。

74%



### 自動化の経験から学ぶ

日本

55%

日本では、AI導入がコスト削減につながるという回答は55%で、グローバル平均の67%を下回っています。

グローバル

67%

41%

日本では、AIが自動化と同様の導入課題に直面すると考える割合は41%にとどまり、グローバル平均の53%を下回っています。

53%



TE Connectivity

# 2026 インダストリアル・テクノロジー・インデックス

## エグゼクティブサマリー

### 本調査について

TE Connectivity 2026 インダストリアル・テクノロジー・インデックスは、世界のテクノロジー業界を牽引するイノベーションの現状を把握するために、第三者機関に委託して実施されたTEConnectivityの独自調査報告書です。本調査は、米国、中国、ドイツ、インド、日本の5カ国において、各業界のエンジニアとエグゼクティブ、計1,000名を対象にオンラインで実施しました。重要なイノベーションの課題に企業がどのように取り組んでいるかについての洞察と知見を提供することを目的としています。

### 本格化するAIの活用

今回の調査対象企業の多くは、AIの試行段階を終え、本格的なAI導入・活用フェーズへ移行していることが示唆されました。多くの企業がある程度AI導入を進めており、特に一部の国では広範囲でAIを導入している企業が大幅に増加しています。

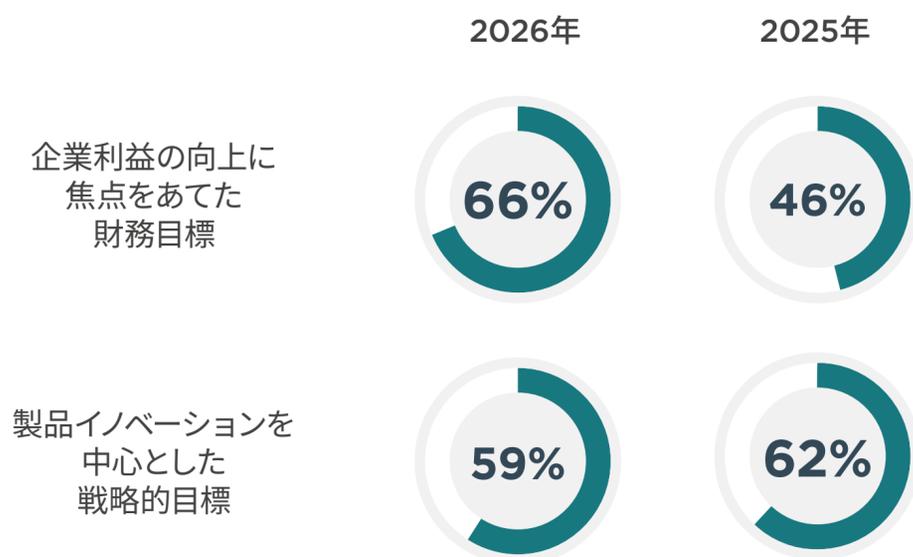
また、企業の全体的な目標にも注目すべき変化が見られます。調査を実施してきた4年間で初めて、企業は「製品イノベーション」の追求よりも「財務目標」の達成を優先する傾向を示しました。その結果、革新的で戦略的なイノベーションを追求するエンジニアと、業務効率化に重点を置くエグゼクティブの間に摩擦が生じる可能性が示唆されています。

TE Connectivity 2026インダストリアル・テクノロジー・インデックスでは、AI導入が、イノベーションと財務成果にもたらす動向を詳細に分析し、AIの価値を最大化するために企業が取るべき取り組みを示しています。

### 世界のAI活用状況-AIを広範囲に導入していると回答した割合 (前年比)

	中国	ドイツ	インド	日本	米国
2026年	29%	37%	37%	33%	41%
2025年	28%	15%	25%	31%	15%

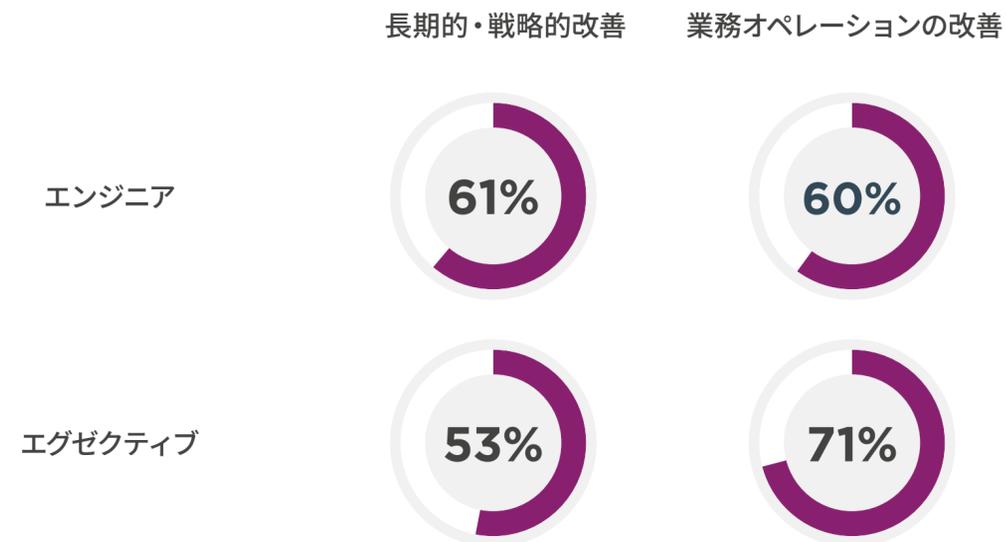
### エグゼクティブが重視するビジネス優先事項 (上位2位、前年比)



### AIのROI関連の質問に対する回答

AIがもたらす価値をどう評価するかをめぐっても、エンジニアとエグゼクティブの見解に相違があります。エグゼクティブは業務面の改善を重視し、エンジニアは長期的な戦略面の改善に着目する傾向が読み取れます。

### AIがもたらす価値をどのように測るか



### エグゼクティブがAI導入による成功を評価する基準 (前年比)

	2026年	2025年
コスト削減	53%	50%
ROI	50%	30%
労働生産性の向上	47%	43%
製品設計の最適化	32%	55%
手作業の自動化拡大	45%	53%
データ処理・分析能力の改善	39%	51%



TE Connectivity

# 2026 インダストリアル・テクノロジー・インデックス

## 今後の道筋

AIが企業活動において大きな価値をもたらす可能性については、すでに広く認識されるようになってきました。今後の焦点は、エグゼクティブとエンジニアが共通の目標のもとで連携し、長期的に成果を生み出すAI戦略をいかに構築していくかという点です。両者の優先事項を踏まえることで、企業はAIによるイノベーションの可能性を最大限に引き出すことができます。



グローバルレポート全文を見る

## AIを活用した業務の広がり

AIは従来のエンジニアリングのあり方を変え、エントリーレベルのスキルの必要性や特定のタスクを遂行するために必要なエンジニアの人数を減らしています。しかし、回答者の66%が、AIは自社で新たな職種やキャリアパスを生み出していると回答しており、AIは雇用を奪うのではなく、むしろ新たな機会を生み出しています。この傾向は、データ、クラウド・コンピューティング、AIと自動車業界で特に顕著に見られます。

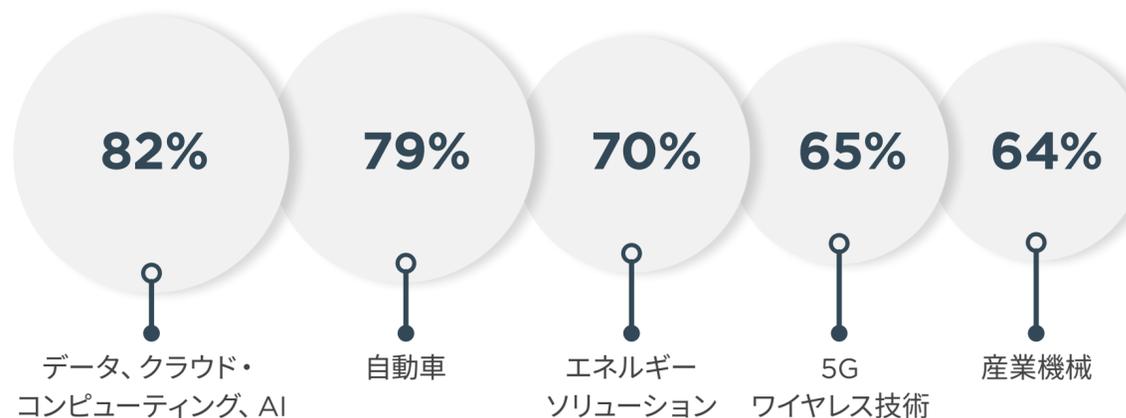


### AIがエンジニアリング人材のニーズに及ぼす影響

高付加価値業務 AIのおかげでエンジニアはより高付加価値の業務に取り組めるようになった	72%
リスクリング 自社はAIと効果的に協業するためにエンジニアのリスクリングを行っている	71%
新たなスキル AIはこれまで存在しなかった新たなスキルに対する需要を生み出している	70%
エントリーレベルの能力 AIにより、エントリーレベルやルーチン作業に関するエンジニアリングのスキルに対するニーズが減った	59%



### AI導入により新たな職種やキャリアパスを創出していると回答した業界の割合



## 過去から学ぶ

自動化技術の導入時に得られた知見は、AI導入にも応用可能であると考えられます。今日AIを導入している企業が直面している課題や機会は、自動化技術の導入時に直面したものと類似しています。自動化を導入する過程ではさまざまな試行錯誤があったものの、最終的にはイノベーション、効率化、データ活用など、企業がAI導入で達成しようとしている目標分野で確かな成果が見られました。



### AI導入にも当てはまると考えられる自動化からの教訓

実証されたメリット  
自動化によって得たメリットはAIでも実現可能



明確なROIが重要  
AIのような新技術への投資には明確なROIが重要



少しずつ展開を進める  
AIを組織全体に展開する前にパイロットケースとして少しずつ進めることが有効



まずは人材育成  
AI導入の前に人材育成を進めることが重要



© 2026 TE Connectivity. All rights reserved.  
TE Connectivity, TE、および TE connectivity (ロゴ) は、TE Connectivity plc ファミリーの企業が所有またはライセンスしている商標です。

Published 03-2026